

# 自学の態度を育てる生徒指導

## 好間中学校

生活訓練の指導に視点を置く。

○第二年次（昭和五十三年度）

ねばり強さを培うために自己実現を図るための援助指導をし、学級指導、生徒理解、特設の日の計画改善を図る。

## 四、研究内容

### 一、研究主題の流れ

○昭和四十八年度～昭和四十九年度  
自校研究「自学の態度の育成」

教科指導を中心として

○昭和五十年度～昭和五十一年度  
文部省指定「自学の態度を育成するための実践研究」

市指定実践研究校「自学の態度を育成するための実践研究」

授業を中心として

○昭和五十二年度～昭和五十三年度  
文部省指定「自学の態度を育成するための生徒指導のあり方」

学級指導を中心として

○昭和五十年度～昭和五十一年度  
文部省指定「自学の態度を育成するための生徒指導のあり方」

授業を中心として

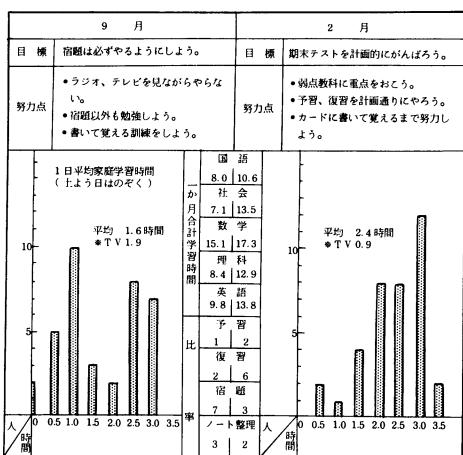
## 二、研究のねらい

- 学級指導を中心として、それをとりまく学校生活のあり方をとらえる。
- 学級担任や教科担任と生徒との人間関係を深める場を形づくる。
- 特別活動の分野を広くとらえ、それらを通して生徒活動を推し進める。
- 学習意欲の向上を図るために手だて

表1 第3学年学業指導月間留意点

| 月  | 学業指導月間留意点                      | 学級指導(サイクル方式)                                  |
|----|--------------------------------|---|
| 4  | 教科の学習法を身につけさせる。                | 最上級生としての自覚                                    |
| 5  | 計画的のある学習をさせる。                  | 生活日課表を作成する                                    |
| 6  | 能率的な学習方法をくつうせる。                | 正しい授業のうけ方<br>学習計画実践の反省と評価                     |
| 7  | 学習態度や生活の反省のうちに夏休みの計画をたてさせる。    | 夏休みの意義と効果的な生活設計<br>↓(不得意教科の克服)                |
| 8  | 実地を通じて自己を書かにする学習をさせる。          | 夏休みの計画実践の反省と評価                                |
| 9  | 実践記録の交換発表により集団の意欲を高めさせる。       | 二期生を見通した計画の立案と実践する意欲                          |
| 10 | たがいに力をあわせ学習を深めさせる。             | 学習計画・学習法の反省と修正<br>進路計画と学習法の再検討                |
| 11 | 個人学習のたいせつを再認識するとともに集団への適応を進める。 | 効率的な学習法を考える<br>残された3か月を考えた計画<br>↓(資料とともに進路決定) |
| 12 | 学習法・態度の終点検をさせ学習の効率化を図る。        | 健康と社会行事を考慮した生活設計<br>↓(新年の抱負と決意)               |
| 1  | 新たな気持ちで学習への強い意志をもたせる。          | 強力な実戦力<br>↓(けげしまし合う)                          |
| 2  | 深化された学習態度を作らせる。                | 学習によって得たもの整理と新しい生活への適応                        |
| 3  | 学習のよこごと将来への意欲をもたせる。            | ↓   |

表2 1日平均家庭学習時間の変容(2年1学級)



- 自主的な活動に大きな動きに持つようになつた。
- 生徒活動の時間に計画

- 自主的意識、役割分担が明確であれば困難な問題でも生徒たちの手で解決していくという確信を得た。

## 五、実践例

### (一) 学級指導(第一研究部)

生徒の学業生活を阻害する要因は多種であるが、本校の場合は根気強さが乏しく、その原因の発見と解消のための援助指導が望まれる。生徒の内因に目をむけ、学習の意欲を喚起させることがより円滑な学業生活へ導くことが必要である。

そこで、生徒の「計画—実践—反省—改善」の過程を的確にとらえながら多面的な角度から学級指導ができるよう組織化を図り実践した。

- ① 実践資料(表1参照)
- ② 学級の変容(表2参照)
- ③ 実践の成果

- 目標意識、役割分担が明確であれば困難な問題でも生徒たちの手で解決していくという確信を得た。